

## 図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～



### 大人のための妖怪と鬼の昔ばなし

井上祐彦

昔ばなしに出てくる鬼たちは、正真正銘の悪者だったのか？物語の中で恐れられる妖怪誕生の背景とその正体とは？鬼や妖怪の視点から読み直すと意外な事実が浮かび上がり、大人になった今だからこそ深く味わうことができます。(東)



### キラキラ読書クラブ 子どもの本702冊ガイド

公共図書館や学校図書館で長年子どもたちに本を手渡してきたメンバーが、選りすぐりの児童書702冊を120のキーワードごとに収録したガイドブック。きっと、知らなかった本や読んでみたい本との出会いが待っています。(西)

▶詳しくは、東図書館 (☎ 62・0190) 西図書館 (☎ 75・5406) へ。

## くらしの豆知識

～「ニセモノ」は買わない！だまされない！～

商品を買うとき、有名ブランドを選択する人は多いでしょう。それは、私たちがその企業のものづくりに対する姿勢や品質を評価し、信頼を寄せているからです。しかし近年、そうした有名ブランドの「ニセモノ」が市場に格安で出回り、消費者や企業に大きな被害を及ぼしています。

### ◆ニセモノが引き起こすさまざまな被害

- ◇ホンモノを製造・販売している企業が長年にわたり努力して築き上げてきた消費者からの信頼と企業の利益を損ないます。
- ◇ニセモノの販売によって得られた利益は、犯罪組織の資金源になっていることがあります。
- ◇安全性が確保されていないため、その使用による人体への被害が数多く報告されています。
- ◇ニセモノを買わない、だまされないために
- ◇信頼できるお店で買う
- ◇市場価格より著しく安いものや説明文の日本語がぎこちないものは疑う
- ◇「100%本物！」など、ホンモノを強調するキャッチコピーに注意
- ◇インターネットでの購入は特に注意を払う



《市民相談課》

## 防災ひとくちメモ

### 雪や低温に関する注意報・警報

#### ◆風雪注意報 (暴風雪警報・暴風雪特別警報)

「強風による災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害 (見通しが利かなくなること) などによる災害」のおそれについても注意を呼びかけるものです。

「大雪+強風」の意味ではありません。大雪により災害が発生するおそれがあると予想したときには「大雪注意報」または「大雪警報」が発表されます。

#### ◆着雪注意報

着雪のため通信線や送電線、船体などへの被害 (電線が切れる、倒木、船の転覆など) が起こるおそれのあるときに発表されます。

#### ◆低温注意報

低温のために農作物などに著しい被害が発生したり、冬季の水道管凍結や破裂による著しい被害の起こるおそれのあるときに発表されます。

#### 舞鶴市の雪や低温に関する注意報・警報の発表基準例

- ◇風雪注意報・陸上 (海上) で平均風速 12 (15) m/s、雪を伴う
- ◇暴風雪警報・陸上 (海上) で平均風速 20 (25) m/s、雪を伴う
- ◇着雪注意報・24 時間降雪の深さが 30mm 以上、気温が 0～3℃
- ◇低温注意報・最低気温が -4℃以下

その他にも大雪注意報 (警報・特別警報) やなだれ注意報などがあります。

《危機管理・防災課》

## 「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、前回に引き続き「抑留者の安否を伝えた葉書」を紹介します。

大阪に住む青年・坂井仁一郎さんが全国の抑留者の家族に向けて送ったとされる約700通もの抑留者の安否情報を知らせるはがきの中には、宛先不明で戻ってくるものも多くあったといいます。その中には、はがきの表に何枚ものふせんが貼られたものがありました。郵便局員がはがきの内容を知り、該当する住所がないか、担当区域以外の郵便局へ転送して探した形跡とみられます。ふせんには「ご親切感激に堪えませんが表記の住所は当局内には心当たりがありません」と記されているものもあります。郵便局員も坂井さんの活動に感動し、必死になって届け先を探したのです。

一方、無事に家族のもとへ届いたはがきから、戦後行方が分からなくなった夫や息子が生きていたと分かり、家族一同が飛び跳ねて喜んだ様子などを記したお礼のはがきが続々と坂井さんのもとに送られてきました。ある家族は「もう諦めていたが、夢かと喜んだ」と記し、またある家族は「家族一同むせび泣き、感涙

に堪えない」「家族全員で胸を躍らせながら拝見した」と喜びを表して、感謝の気持ちを伝えました。また、ある女性は「戦争で全てを失い絶望的な状況だったが、夫が生きていることを知り、生きる希望を取り戻した」と伝えています。

坂井さんの私費を投じた活動は、急激な物価の値上がりや給料の支払いの遅れなどの理由で断念せざるを得ませんでした。手記の中で、坂井さんは当時の思いを「挫折した」と表現しており、とても残念な気持ちだったことが伝わってきます。

1人の青年の小さな活動は、多くの人に戦争で失った希望を取り戻させてくれました。坂井さんの送ったはがきと、そのお礼のはがきからは、決して物質的には恵まれなくとも、精神的な豊かさを忘れなかった当時の人々の姿が見えてきます。

▶詳しくは、引揚記念館 (☎ 68・0836) へ。



▲宛先不明で坂井さんのもとに戻ってきたふせんの貼られたはがき

## 広げよう人権の輪 ～働くことが自立につながる-「BONO」を訪れて-～

障害者の就労の場として昨年12月にオープンしたワークショップほのぼの屋「BONO」に行ってきました。墨色のクールな外観とは打って変わり、店内は木目を生かしたおしゃれな造りで、カフェのある2階の大きな窓ガラスからは港を望むことができ、ゆったりとした時間が流れるすてきな空間となっています。

ここでは、20人ほどの障害のある人がスタッフとして働いており、接客、レジ係、販売、料理の盛り付けなどを担当しています。スタッフへの配慮として、使いやすい設備にすることはもちろんのこと、写真などを使って仕事の手順を分かりやすく表示することや、本人が失敗して自信を失わないよう、できることを少しずつ増やし、次のステップへ移るようにしているとのことでした。

「接客業は奥が深く難しいですが、大切なことは、お客様が来てくださってうれしいという気持ちを持つこと。その気持ちがあれば、できることや任せられる仕事が増えていきます。障害者だからということではなく、一般の職場でも言えますが、お互いがカバーし合いながら苦手な点を努力することで、少しずつできるようになっていく。こうした職場が増えていけば、

障害のある人の就労がもっと広がると思います」とサポートを行う職員は話してくれました。

「仕事が楽しい」「いろんなお客さんと話せてうれしい」と語るスタッフの言葉に働くことへの意欲と喜びを感じました。障害のある人が自立し社会参加していく上で、働くことはとても重要なことであり、社会への貢献、自分の夢や希望、生きがいにつながります。障害のある人の就労には、まだまだ課題もありますが、彼らが自信を持って、生き生きと働く光景が当たり前となる世の中にしていきたいと思いました。一度「BONO」を訪れ、憩いのひとときを過ごされてはいかがでしょうか。

《人権啓発推進室》

